

## 『ジャパニーズ・ホロコースト』

高山正之  
ジャーナリスト

## 日本をデイスる

大高未貴  
ジャーナリスト

## トンデモ「反日」本に鉄槌を

反日的な言説が連動している。樋口季一郎の功績すら認めないなんて……

## トンデモ本に對抗！

高山 日本を貶めようとする勢力が世界中に集まっている。二〇二四年三月、『ジャパニーズ・ホロコースト』（ブライアン・マーク・リッグ著／未邦訳）というとてもない書籍が米

国で刊行された。

大高 慰安婦問題や南京大虐殺をはじめ、「天皇の命令で日本軍がアジアの人々三千万人を虐殺した」などと荒唐無稽な珍説が展開されています。しかも、著者のリッグ氏は「五カ国の十八以上の研究施設で調査を行った」と豪語しています。その割には「日本

軍は小児性愛者でジェフリー・エプスタインと同じだ」などと、未成年売春斡旋業者と同格に論じる笑止千万な記述も散見され、吉田清治並みの戦争犯罪妄想が満載の内容となっています。

高山 そんなトンデモ本に對抗し、大高さんは『ジャパニーズ・ホロコースト』解体新書（ビジネス社）を上梓した。大高さんの豊富な知識と取材力で徹底的に反論している。著者

のリッグとは何者なの？

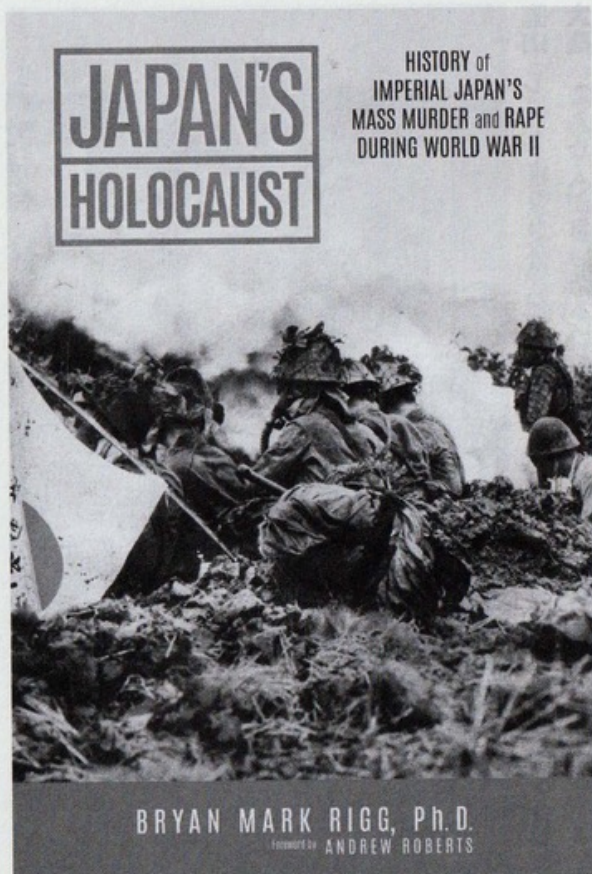
大高 一九七一年生まれ、在米ユダヤ人で、オンライン大学のアメリカーン・ミリタリー・ユニバーシティ（ドイツ軍史）、およびサザンメソジスト大学の歴史学者という肩書です。元

海兵隊将校でもあり、ダラスにあるホロコースト人権博物館の理事などを務めています。

高山 リッグは『ヒトラーのユダヤ人兵士』（未邦訳）という書籍も刊行しているが、盗作疑惑があったとか。

大高 ナチスドイツ軍内に、ユダヤ人の血筋に分類されていた人物が十五万人もいたという内容の書籍です。一九三〇年代半ばに初めて制定された人種法の結果として、驚くほど多くのドイツ軍人がナチスによってユダヤ人、または「部分的ユダヤ人」に分類されました。

そういう面も含めて、リッグ氏はヒトラー統治の批判を展開したので、刊行前に「部分的ユダヤ人」について論文化したところ、ドイツの学者から「部分的ユダヤ人」は盗作ではないかと告発されたこともあった。ちなみにリッグ氏の担任だったイェール大学教授のヘンリー・タナー博士は「リッグ氏は実際には知識人でも歴史家でもなく、学界には向いていないため、大学院への推薦を拒否した」と話しています。



ブライアン・マーク・リッグ著『ジャパニーズ・ホロコースト』（未邦訳）





おおたか みき

1969年生まれ。フェリス女学院大学卒業。世界100カ国以上を訪問。チベットのダライラマ14世、台湾の李登輝元総統、世界ウイグル会議総裁ラビア・カーディル女史などにインタビューする。「日韓」円満。断交はいいか? 女性キャスターが見た慰安婦問題の真実(ワニブックス)、「イスラム国残酷支配の真実」(双葉社)など著書多数。新著「日本を「ウクライナ」にさせない!」(ワック)が好評発売中。

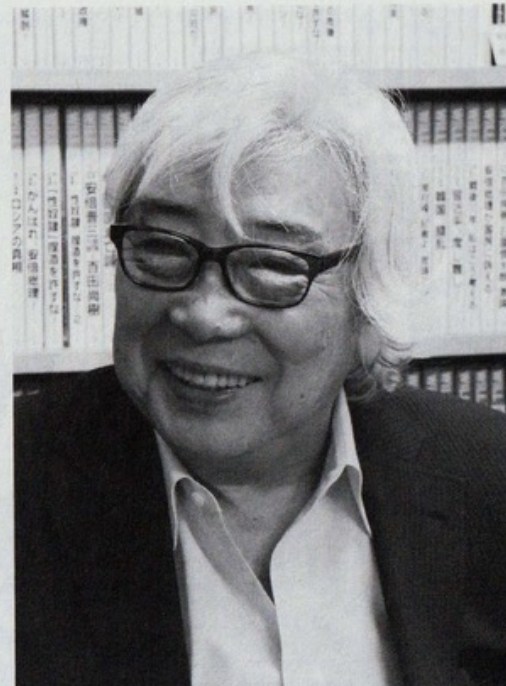
大高 「ジャパンズ・ホロコースト」のみならず、最近では反日的な言説が

## 反日的な言説が運動

高山 読んで、そんな賛辞を書いたのか疑いたくなります。  
高山 推薦人のお里が知れるね。

運動しているように感じます。日大准教授のトーマス・ロックリー氏が二〇一七年、「信長と弥助 本能寺を生き延びた黒人侍」(太田出版)を出版。そこには戦国時代の日本で「地元の名士のあいだでは、権威の象徴としてアフリカ人奴隷を使うという流行が始まったようだ」などの記述がある

りました。つまり、信長に仕えていた黒人武士、弥助は奴隷だったと言いたいわけです。  
高山 まったくのデタラメだ。信長は弥助をかわいがり、側に仕えさせた。本能寺の変のときも弥助はともにし、信長の首級を抱えて逃げたという説もある。結局、信長の首がどこにいったのか、歴史の闇の中だが、それほど深い関係にあった。彼が奴隷ならそこまで信長に尽くすわけもないし、だいたい日本人は奴隷という概念がない。  
日本人は奴隷制度を嫌っていた。一七七五年、米国が独立する直前、スウェーデンの植物学者、ツェンペリーがオランダ人を装って長崎に来た。江戸参府もして日本紀行を残しているけれど、その中で「日本人はオランダ人が黒人奴隷を苛め、酷使す



たかやま まさゆき

1942年、東京生まれ。東京都立大学卒業後、産経新聞社に入社。社会部デスクを経て、テヘラン、ロサンゼルス各支局長。80年代のイラン革命やイラン・イラク戦争を現地取材。98年より3年間、産経新聞の時事コラム「異見自在」を担当。辛口のコラムで定評がある。2001年〜07年、帝京大学教授。著書に「日本人よ強くなれ——世界は邪悪な連中や国ばかり」(ワック)、共著に「核大国は氏素性の悪さを競う」(石平/ワック)など。

高山 どうしようもないね。  
大高 こんな人が書いた本にもかかわらず「ワシントン・ポスト」紙は「天皇の名のもとに行われた戦争犯罪第二次世界大戦中、日本はアジア近隣諸国に対して数々の残虐行為を行った」と題し「征服した日本軍にとって、最下級の兵士から最上級の将校に至るまで、強姦、斬首、身体

の切断、腹部の内臓をえぐり出す儀式は日常茶飯事だった」(二〇二四年四月二十六日付)などと紹介しており大問題です。  
「ジャパンズ・ホロコースト」の端書に、イラクに大量破壊兵器があるとし、イラク戦争を正当化したフーバー

研究所でネオコンのアンドリュース・ロバーツ氏が名を連ねています。ちなみに大量破壊兵器が存在していないことが判明した際、ロバーツ氏は実に苦しい言い訳に終始しました。また、推薦人のリー・R・マンデル氏は、「第二次世界大戦のホロコーストに関する議論のほとんどは、ナチスドイツが行った残虐行為を中心になっている。大日本帝国によって犯されたホロコーストは、ほとんど研究されておらず、認識すらされていない。歴史家のブライアン・リッグは、彼の徹底的な研究の中で、おそらくこの主題に関する決定的な研究を文書化した。(略)「ジャパンズ・ホロコースト」は、第二次世界大戦を学ぶすべての学生にとって必読の書である」と評していますが、本当に本書を





大高末貴著  
『ジャパニーズ・ホロコースト』解体新書  
(ビジネス社)

るのを本気で怒っていた」と書いている。そういう人でなしのオランダ人を日本人は嫌い、彼らが風呂に入らずに、体臭を漂わせるのを「登城する紅毛に蠅のついていき」と川柳にも詠んだ。さらに、長崎奉行所は虐げられる黒人に同情して出島から連れ出し、丸山遊郭で遊ばせたという話も残っている。

大高 ロックリー氏は実に悪質で、ウィキペディアにある「弥助」の項を加筆し、さらにブリタニカ百科事典まで改竄しました。確信犯的に日本を貶めることをしています。ちなみにロックリー氏もユダヤ系（曾祖父がユダヤ人）です。

高山 意図的な反日の波が起きているのだろうか。

大高 実際にロックリー氏の影響を受けてか、BBCは「アフリカ出身の

侍がいた」、CNNは「弥助が残した不朽の遺産」などと弥助を取り上げており、ロックリー氏自身も海外メディアの記事に登場するようになっていく。彼の言説が世界中で拡散されたら、日本に対する誤解はますます高まるばかりです。

## 風邪気味でも歩けた

高山 少し古い話になるけど、ユダヤ人学者、レスター・テニー（アリゾナ大学教授）が一九九五年、戦後五十周年の節目に「バターン 遠い道のりのさきに」を執筆した。この男はフィリピンでの「バターン死の行進」の当事者で、騎乗した日本軍将校に首を刎ねられそうになったとか、体験談を語っているが、日本軍が米軍と同じ水責め拷問をやったとか、ゲ

イリー・クーバーの映画に出てくる海賊の拷問を米兵にやったとか、恥ずかしげもないデタラメを書きまくった。

大高 笹幸恵さんが「バターン死の行進」を歩いてみました、という話を『文藝春秋』（二〇〇五年十二月号）に書いたんですよ。

高山 バターンとは大戦の劈頭、日本軍と米軍が戦ったところだ。ところが敵の大將マッカーサーはさっさと逃げ出し、残った七万人の将兵は前衛のフィリピン人兵士がやられると戦わずに手を上げた。そんな大人数を運ぶトラックなんて持ち合わせがあるわけなし。で、彼らを歩かせた。一泊二日で八十キロの行程だ。元自衛官のやす子だって日テレの「24時間テレビ」の馬拉ソンで八十一キロ走っている。大の米兵がそうしんど

がる距離ではないと思う。笹女史も「風邪気味でも歩けた」と書いた。

大高 そしたら、レスター・テニー氏は笹さんの記事に噛みついてきた。高山 「あの死の行進をおちよくり、冒瀆するとは何事か」というわけだ。彼はそれをサイモン・ウィーゼンタール・センターのクーパー師に語らせ、文藝春秋に文句を言ってきた。同社

は例の「マルコポーロ」誌で苛められていたからこのときも怯えて、彼の言い分をそっくり載せた。バターンは休息もなかった、休めば日本軍が銃把で殴りつけた、彼らは疲労で倒れた捕虜を容赦なく殺した、というふうを書く。日本軍はそんな振る舞いはしないし、だいたい八十キロを徹夜で歩いたわけでもない。一泊しているし、休憩中のコーヒーブレークの写真も残っている。そんなゆるい死の行進があるだろうか。

大高 私自身も日本軍が米兵将校に紅茶を振る舞っていたり、捕虜が海水浴をしている写真を見たことがあります。

高山 さらに、一九九七年にはアイリス・チャンが「ザ・レイプ・オブ・南京」を刊行した。

大高 アイリス・チャンは「バターン

死の行進」についても書くこうとしていましたが、その途中で拳銃自殺を遂げた。ちなみに、在米華僑団体「世界抗日戦争史実維護連合会（抗日連合会）」の副代表がイグナシアス・ディンであり、彼こそアイリス・チャンの中国での取材をお膳立てした「ザ・レイプ・オブ・南京」の立役者です。ディンは抗日連合会の創設者で、台湾出身であり、国民党の血筋です。一九七八年に渡米、一九九一年、毎年一回、ニューヨークで南京大虐殺の追悼集会を二十五年間にわたって主催している団体と出会い、反日的な組織を立ち上げました。私は二回、米国で彼に取材したことがあります。

カリフォルニア州のソノマ大学構内には、アウシュビッツの線路を模したホロコースト記念碑があります。その線路の間に、抗日連合会は「日本



軍によって二十五万人もの朝鮮女性が性奴隷にされた」と刻まれた石板を埋め込み、あたかもホロコーストに日本が加担したかのような式典をやつてのけています。在米華僑、在米韓国人の反日運動も注視する必要があります。

## 樋口季一郎の功績を無視？

高山 それにしても、なぜ、このタイミングで『ジャパニーズ・ホロコースト』が刊行されたのか。

大高 一つにはイスラエル・ハマス戦争の長期化があげられるのではないでしょうか。南アフリカはイスラエルがガザで集団虐殺（ジェノサイド）を行っているとして、国際司法裁判所にイスラエルを提訴しました。ブラジルのシルヴァ大統領やコロ

ビアのペトロ大統領もイスラエルの行為を「ガザのホロコースト」になぞらえています。

トランプ大統領が九月十四日、カリフォルニア州での演説で「バイデン政権下で三十二万五千人の移民の子供たちが行方不明、その多くが死亡か性奴隷にされた」と発言しました。冒頭でも触れましたが、リック氏は著作で「日本軍＝小児性愛者、猟奇的殺人軍団」と印象付けようとしています。

高山 つまり、自分たちの罪を日本に置き換え、国際非難の矛先（はこさき）を変えさせようとする意図があるかもしれないわけだ。

大高 それから日本の自立を阻むという目的もあると思います。日本に核武装を許さず、対米依存にして永遠にキャッシュ・デイスペンサーに留めておく。そのためには日本人が

自虐史観に洗脳されたままのほうが都合がいいし、戦後賠償の蒸し返しもできると踏んだのではありませんか。現にリック氏の著書が出て以降、中国で元慰安婦が日本に訴訟を起したり、イタリアに「ホロコースト」などと説明板に記載された慰安婦像が設置されています。クリントン政権時代、米国における百二十兆円規模の対日戦後賠償に在米ユダヤ人弁護士が絡んでいた話は以前、高山さんから教えていただきました。戦後賠償には莫大なお金がかかります。

たとえば、第一次世界大戦後、ヴェルサイユ条約で規定されたドイツの賠償金の総額は約千三百二十億マルク（約二百兆円）。この賠償金が完済したのは二〇一〇年、なんと第一次世界大戦終結から九十二年後のことです。

さらに第二次大戦後、ドイツが一九五六年から二〇〇九年までの間にナチスに迫害されたと主張するユダヤ人に支払った戦後賠償は六百七十一億千八百万ユーロ（約十一兆円）に達します。そもそも第二次世界大戦中に存在しなかったイスラエルに賠償金が支払われることに關しては多くの疑義が呈されていましたが、結局、イスラエルに対しても支払われています。それとは別に実はナチスドイツに迫害されたと称するユダヤ人団体が賠償請求を行ったのは、ドイツのみならずスイスや旧東欧にまで及んでいます。これらの主だった訴訟は一九九〇年代のクリントン政権と重なります。

高山 日本でも朝日が慰安婦報道を盛り上げたのが一九九〇年代前半だった。アイリス・チャンの『ザ・レ

イブ・オブ・南京』が出たのが九七年だが、チャンを持ち上げた「ニューヨーク・タイムズ」は朝日と提携している。

大高 そういう意味でも、戦後賠償というくくりで慰安婦や南京を俯瞰すれば、これらの問題は日本とドイツからセットで戦略的に戦後賠償金をせしめようとする動きだったと言えるのではないのでしょうか。

高山 しかし、日本まで対象にするとはおかしい話だ。歴史を振り返ってみれば、ユダヤは日本に対して感謝こそすれ、貶める対象ではまったくくない。ユダヤ人は長い歴史の中で、迫害を受け続けてきた。戦前もそれは変わらなかった。元駐日大使のエリ・コーヘンは世界中の人々がユダヤ人を助けたと言っているが、そんなことはない。唯一、助けた国が日

本だった。

大高 不思議なことに、ユダヤ人はその事実を頑として認めません。代表的なのは、日独伊三国同盟時代に、満洲に逃れてきた数多のユダヤ人難民の命を救った陸軍中将・樋口季一郎氏です。樋口中将らは、ナチスドイツの迫害から逃れ、シベリア鉄道に乗って満洲国国境のオトポール駅で立ち往生していたユダヤ難民たちに満洲国入国のゲートを開きました。「ヒグチ・ルート」と呼ばれた脱出路も有名な話です。

高山 いわゆる「オトポール事件」（一九三八年）だ。

大高 ところが、そんな樋口中将の功績を、二人のユダヤ人学者が頭ごなしに否定しました。カナダ・ヨーク大学の歴史学者で東アジア専門のジョシユア・フォーゲル教授と、イ



消し、まるで中国がユダヤ人を助けたように展示しています。

以前、イスラエル大使館主催の講演会で、樋口中将や安江仙弘大佐が「ゴールデンブック」(ユダヤ民族に貢献した人物を記した記録)に登録されている話をしました。その時は、若いイスラエルの外交官が講演後に感極まって「そんな事実は知らなかった! 教えてくれてありがとう!」と喜んでくれた。

ところが、その後にイスラエル大使館あてにクレームが入りました。樋口中将らの関東軍がユダヤ人の受け入れを決定しましたが、その最終責任者は東條英機だった。私は東條の名前も出したところ、日本人団体から抗議が殺到し、イスラエル大使館は対応に苦慮したのです。日本人がそんな行為をするから、余計にイ

スラエル側も頑なな態度になるのではないでしょうか。

**白人支配にヒビを入れた日本**

**高山** 日本が明治維新以降、世界に登場したことで、白人世界は狂ってしまった。日露戦争でロシアが敗れ、白人支配にヒビが入った。それ以降、日本をコントロールして支配することが、米国の第一使命となった。その中にユダヤ人社会も参画しているように思う。

そもそも、ユダヤ人社会は白人世界なのかというと、実はイスラエルはすでに白人国家の仲間入りをしている。これがちよつと変で、ディアスポラ(離散の民)で世界中に散らばったのはアラブ人と同じセム系のユダヤ人セファルディだ。一方、ド

イツやフランス、東欧にいるユダヤ人はアシケナージという白人種ユダヤ人だ。今、イスラエルにいるのは十人中九人までが、この欧州系白人アシケナージなのだ。

もともとヨルダンの国王もセム系のユダヤ人が帰ってくるのであれば歓迎すると言っていた。ところが、いざ「ディアスポラから帰ってきた」というユダヤ人はみな白人(アシケナージ)だった。

**大高** もはやイスラエルは白人国家になっているわけですね。

**高山** ただ、これは大声で言うてはいけない話らしい。米国の黒人女優ウービー・ゴールドバーグが、ウクライナ紛争勃発の直前、米国のテレビ番組で「ホロコーストは人種問題と言っているけど、実際は(欧州人対アシケナージという)白人同士の諍

スラエル・ハイファ大学の歴史学者で日本研究家のロテム・カウナー教授です。彼らは二〇二二年十二月、東京の日本外国特派員協会(FCCJ)で記者会見を開き、「日本の歴史修正主義者は、樋口季一郎中将を戦時難民を救った英雄と称しているが、彼らの根拠のない説明は、ユダヤ人の苦しみを故意に悪用している」と述べたのです。これに対して樋口中将のお孫さんである樋口隆一氏がFCCJに対して反論文を出しましたが、何の返答も見当たらない。

**高山** とんでもない話だ。

**大高** さらにカウナー教授は樋口中将を貶めるのに飽き足らず、杉原千畝氏に対しても、アジアの代表的な国際新聞に掲載された「日本のシンドラー、第二次世界大戦で救ったユダヤ人は日本の主張より少なかった可

能性」と題した記事にコメントを寄せています。いわゆる杉原氏の功績は誇張されたものにすぎないと。彼らの言説は恩を仇で返すどころか、非常に悪質な歴史の歪曲にほかなりません。

**高山** イスラエル・ハマス戦争が泥沼化している今だからこそ、ネタニヤフ自らが公式に日本に救われた恩義について言及すべきだ。実は、一度だけ恩知らずのイスラエルが感謝したことがある。武漢ウイルスが流行ったとき、イスラエルは米国と並ぶ素早さで中国との往来を断ち切った。中国人を追い出したんだ。そして、戴玉明・駐イスラエル中国大使が「私は哀しい。ホロコーストの中でユダヤ人を受け入れてやった中国にこんな冷たい扱いをするのか」(隔月誌「みるとす」と記者会見で、そ

の薄情を非難した。

ところが、イスラエルは「何を言う。ユダヤ人を助けたのは日本人だ」上海は日本が管理していた。歴史を捏造するな」と反論した。イスラエルはそれまで国を追われたユダヤ人約二万人が上海の日本租界に受け入れてもらった、それでみな命も助かった。中には後にカーター政権の財務長官マイケル・ブルメンソールもいた。

それなのに今までありがたうでもなし、徹底して無視してきた。それが弾みとはいえ、売り言葉に買い言葉で中国ではなく日本に救ってもらったんだとはつきり言ってしまった。よほど中国人のいい人ぶりっこに腹が立ったのか。

**大高** 上海ユダヤ難民記念館では、先述したようにユダヤ人避難民を懸命に助けた樋口中将の名前を故意に



いじゃないか」と発言した。その場は凍り付いて、ゴールドバーグは即、出演停止となった。

幸いというかウクライナ戦争も始まって世間の目がそっちに向くと、ゴールドバーグは二週間の謹慎という軽い扱いで何にもなかったことにしてしまった。そうではなく、ウービーの発言が世界で論争を引き起こしてもしたら大変なことになっていた。つまり今、イスラエルにいる自称ユダヤ人たちはもともとパレスチナとは無縁の白人ユダヤ教徒で、欧州から追われて新天地を求めてパレスチナにやってきて、先住民のパレスチナ人を追い立てているみたいな話になってしまつてしまった。

コーカサス地方にいたハザールの民だという説もある。いずれにせよシオニズムを名乗って見知らぬ白人

がパレスチナにやってきたと見立てると、それは欧州で食い詰めた白人が新天地アメリカに来て先住のインディアンを追い立てる米国の開拓史と同じ形になってしまふ。ガザ紛争も、ガザに「アパッチ」がいて、白人居留民とやり合っているというふうに見られてしまふ。

大高 しかもラビ（ユダヤ教指導者）が「ゴイム（非ユダヤ民族）はユダヤ人に奉仕するためだけに存在している」などといった発言が「エルサレム・ポスト」で報じられています。

高山 ネタニヤフは、だからガザを殲滅するまでやるというのも「旧約聖書」通りになってしまふ。「民数記」にはこうある。カナンの地に入ったイスラエルびとはミディアンびとの戦士を皆殺しにし、引き揚げてきたするとモーゼは「ミディアンびとの許

に戻って男を知る女（人妻）はみなを殺せ。タネを持つ男は子供まで殺せ。ただ処女は生かして弄ぶがいい。あなたたちへの神の贈り物だからと言った」という。

それをガザで今やっているわけだけど、思わぬところで白人もユダヤ人も「略奪・殺戮・強姦」こそが戦争のパターンだったことを明かしてしまった。聖書を読まない中国人も戦争と言えば同じ略奪・強姦・殺戮の三点セットでやってきた。

ところが、日本だけは違った。戦争で略奪・殺戮・強姦を禁じた軍隊など、いまだかつて存在したことがなかった。だからこそ、白人世界（ユダヤ人社会も含む）は日本軍を煙たがり、汚したがる。目の敵にできた。大高 リック氏は「彼ら日本人にとつて日本人でない人は皆、神が好まざ

る子供たちでした」（『ジャパンズ・ヒロコースト』）などと、トンデモ日本論を展開しています。リック氏は日本がヴェルサイユ講和会議で人種平等を提言したことすら知らないのでしょう。

また、リック氏は「日本軍がアジア中で強姦を行っていた」と書いており、慰安婦問題の論点すら理解していません。慰安所は現地での強姦を防ぐために設置されたものだったのです。戦争中に慰安所のような場所をつくること自体も、今まであり得ないことだった。

## 米国の恥部

高山 彼らは強姦で済ませる。金などかけない。それを象徴するのが米国の「アメリカン一九八二年法」だ。

「アメリカン」とは、アメリカ人とアジア人の混血児を意味し、ノーベル賞作家のパール・バックが造語した。韓国、タイ、ベトナム、フィリピンなどで米軍人が女性を犯したりして多くの混血児を生み捨てにして逃げてきた。その無責任さが問題になって、一九八二年に父親が米国人だと判明した場合は、市民権を与える法律をつくった。それが「アメリカン一九八二年法」だ。ただし、日本・フィリピンだけは除くと規定された。

大高 どうしてその二カ国なのでしょう。高山 一九八八年、米西戦争を皮切りに、米国はフィリピンを半世紀支配した。フィリピンには一世紀近くかかり、その結果、強姦数も抜群に高くて、混血児はざっと数えても五十万人以上はいる。そんなのに市

民権を与えたら大変だから、フィリピンを除外することにした。日本人との混血児は、終戦後、強姦で約五千人はいたといわれる。

ところが、例えばジョン・ダワールの『敗北を抱きしめて』には「米将兵はみな紳士で強姦などしない」「マッカーサーはカリスマ性があつて世界一うまくいった占領統治だった」とあるのに、今さら強姦が五千件もありましたなどと言えないし、「強姦混血児を救済します」では、GHQの報道管制のひどさもばれてしまふ。だから、この法律のことは日本政府にも知らせずに誤魔化してきた。それにだいたい日本人は米国の市民権をありがたがる風潮もないし。

大高 一方で、日本兵と地元女性の間で生まれた子供がたくさんいるという話を聞いたことはありません。



『ジャパンズ・ホロコースト』などで主張しているように日本兵がいたるところで強姦をしていたら、そんな話が出てきてもおかしくないのに。

高山 米国では「アメリカン一九八二年法」という法律をつくらなければいけないほど、世界中で強姦してきただけだが、日本に向かって「お前は強姦国家だ」と嘘をつきまくる。恥を知るがいい。

大高 略奪に関しても米軍の場合は沖縄戦のとき、尚家の宝物を略奪しています。一部は返していますが。

高山 硫黄島の戦いで、馬術の金メダリスト（一九三二年、ロス五輪）だった西竹一中尉（パロン西）が戦死した。普通は遺品が回収される場所なのに米軍兵士は西中尉の軍服や軍刀、軍靴など、何から何まで奪っていった。彼らはよく「戦死者が持っていた」

とか言って必勝と書かれた日の丸を返してくる。しかし、あれはそれこそ腹帯の中に入れるものだ。そこまです死者の懐を探る。民族性というか、略奪癖が抜けないんだ。

大高 実にひどい行為です。

高山 一方で、日本軍は略奪行為をほとんどしない。欧米諸国からするとそれは困る。だから、日清戦争のとき、「旅順虐殺事件」というデマが流布されたこともあった。

「ニューヨーク・ワールド」特派員で、ユダヤ系のジェームズ・クリールマンが六万人の中国人を大虐殺したと報じた。どうしてそんなウソをクリールマンがついたのか、自伝で告白しているが、「日本兵が中国兵を殺害し、胸を裂いて、心臓を取り出し、みなで食べているのを見た」と言う。そういう行為をするのは中国兵だ。実際、

日清戦争後、義和団の乱では、ドイツ公使フォン・ケトラーが襲われ、なぶり殺しの挙句、胸を裂いて心臓が取り出され、義和団の連中が食っている。

大高 日本軍による人肉食といえはリック氏がたびたび引用している元広島市立大学広島平和研究所教授の田中利幸氏の記述から拡散されています。彼の配偶者はユダヤ系の女性で、田中氏はYUKI TANAKA、難波哲、赤坂まさみといったいくつかのペンネームを使い分けています。

### 日本人への根深い嫉妬心

高山 要するに日本人に対する根深い嫉妬心があるんじゃないか。白人は世界の覇権を握っているという自負がある。人類が発展していく上で、

適者生存で白人がもつとも優れている。黒人や苦力（クワリ）は奴隷にしても構わないと思っている。

ところが、非キリスト教徒で非白人でありながら、キリスト教徒よりもはるかに慈悲と博愛をもって、各国で素晴らしい統治をする日本という存在がいるのは、具合が悪い。だから、樋口中将や杉原千畝の功績を腐す。そして、ありもしない慰安婦問題や南京大虐殺を取り上げ、いかに日本がダメな国であるかを喧伝し、自分たちの優位性を守ろうと必死なわけだ。

ロス暴動があった一九九二年、そのロスに特派員に出た。「AP」や「ニューヨーク・タイムズ」「ロサンゼルス・タイムズ」に毎日、目を通していた。ところが一様に日本に対しては辛辣な論調だった。北朝鮮が食糧

難で国連を通じて食糧を拠出するという話があったとき「日本は非協力的だ」と批判した記事があったが、その「KOREA」の部分に「かつてここを植民地支配した」という枕詞がつく。「東南アジア諸国」という単語が出てくると、また「かつてここを侵略し、残虐を恣にした」という枕詞も必ずついた。

大高 ひどい表現です。明らかに日本を貶めようとする意図がある。

高山 あまりに頭にきたから「ニューヨーク・タイムズ」の論説委員室に抗議の電話をかけた。「なんであんな注釈をつけるのか『筆者を出せ』と文句を言ったら、『社説は担当記者が誰かは言えない。抗議があったことは伝える』と言う。「じゃあ、次にフィリピンに言及するときは、米国が四十万人の住民を殺害し、騙して植民地

化したと注釈をつけろ」と伝えたが、フィリピンが出てきても何の注釈もついていなかった。

大高 実にズルいですね。

高山 しかも、その後も日本に関する表現は相変わらずだった。二〇一三年五月、安倍さんが宮城県東松島市の航空自衛隊基地を訪問した際、ブルーインパールの操縦席に座って、親指を立てた写真が新聞に載った。機体番号が「731」。そして「731部隊」を想起したのか、米国ワシントン政治・外交情報誌「ネルソン・リポート」が「ドイツ総理がナチの服を着たようなものだ」と批判した。

「ニューヨーク・タイムズ」も待ってましたとばかりに、「731の生体実験」があなたも真実かのように書いていた。

大高 731部隊とは、第二次世界



大戦時、日本帝国関東軍の所屬で、生化学兵器の研究開発過程で多くの韓国人・中国人捕虜と住民を対象に反倫理的な生体実験をした部隊と言われています。ちなみに、中国は来年に向けて、731映画のリメイク版をつくっているとのこと。

高山 731部隊は三千人くらい人体実験をやってデータをとった。人道主義の米国は人体実験をやったことがないから貴重なデータをもらわず許しに、石井細菌部隊の罪を問わず許したふうなでたらめ話を、神奈川大学の常石敬一とか馬鹿な日本人学者が言っていた。

しかし、それは真つ赤な嘘。米国は人体実験天国で自国民に四十年もこつそり人体実験を続けたタスキギー実験やグアテマラの囚人に梅毒菌を植え付けて多くを死なせたケ-

スや原爆投下のためにブルトニウムを飲ませた実験など、めっちゃをやってきた。米国は日本軍の残忍さと言いつつ、何も出てこないから南京大虐殺やバターン死の行進なんかを捏造してきた。731部隊がホントに大規模な人体実験をやっていたら米国は喜んでそれを出して、石井隊長以下に勲章を出しただろう。

この話が捏造だというのは人体実験内容からも言える。731部隊は「人間を真空なところに閉じ込めたら、眼球が飛び出し、血液が沸騰して、爆発死を遂げた」という。

大高 作家の森村誠一氏が「悪魔の飽食」と題した小説で、731部隊をこき下ろしました。そのため、そんなデマが拡散されてしまった。

高山 そんなソ連の有人宇宙船「ソユーズ」が大気圏突入準備中に宇宙船

内の空気が失われ、搭乗員が真空状態で窒息死する事故があった。ところが、状況から血液は沸騰などせず目玉も飛び出さなかった。「731部隊の実験」がウソだったことがバレてしまった。そのほかの「日本軍は残酷だった」という話のほとんどは、実はみな米国側がやっていた残酷話を「日本軍がやっていた」ふうにしていたわけだ。

大高 米国の宣教師が黒幕で、国民党宣伝部も関与していました。さらに戦後、朝日新聞と中国共産党が結託し、南京キャンペーンを日本から始めたという、悪魔の歴史捏造ロンダリングによって、自分たちの罪を日本になすりつけようとする。

高山 「日本をやったことは正しかった」ということを繰り返し言いつつ、刷り込まないと、そもそものが嘘から

出発しているから、メッキが剥がれてしまう。放っておくと、「日本人はすごい人たちはばかりだ」という話が出てくるから、それを封じ込めるためにも日本を貶め続けなければならぬ。

### 検証くらいしろ

大高 「ジャパンズ・ホロコースト」もその文脈で刊行された可能性が高い。だからこそ、相手の意図をわかった上で、しっかり反論しなければなりません。「ジャパンズ・ホロコースト」の内容が米国の学術論文で引用されるのはとてもまずい。しかも今回は日本をナチスドイツ以下に貶めるキャンペーンが繰り広げられています。むしろ、ナチスのほうがまともだったと言わなければなりません。「ドイツ

兵にはモラルがあつたけれども、日本兵は実に残酷非道な行爲をした。妊婦の腹を切り裂き、胎児を取り出すことまでした」と書く。

高山 子供を強姦するときは、膣を切り裂き、サイズに合わせたとも書いてるが、それもまったくのデタラメ。英国の貴族アーサー・ボンソンの「一九二〇年代に著した『戦時の嘘』で、そんな残酷行為はすべてインチキであることが指摘されている。

第一次大戦の際、ドイツ軍が赤ちゃんを銃剣で刺したり、子供の腕を切つたなど、ありもしない残酷な行爲をメディアが書きまくった。実は参戦しないと切つて大統領になったウッドロー・ウィルソンが国務長官、陸軍長官、海軍長官、新聞業界代表の四人による「米国広報委員会(CPI)」を立ち上げて国内世論を誘導す

るプロパガンダを集中的に掲載させた。それで世論が沸騰し、米国の参戦が決まった。そのために生み出した嘘だが、米国ではインディアン戦争でもつと残忍な殺しをやってきたから、子供の手を切り落としたとか捏造ネタには困らなかった。

大高 「レイプ・オブ・ベルギー」ですね。拙著でも取り上げましたが、そのプロパガンダに携わっていた英米戦争宣伝局の仲間でもあったリパールのラッセル卿が「元祖アイリス・チャン」&言える人物です。

高山 そう。ドイツ軍がベルギーの子供たちの手首を切つて将来も銃を撃てなくしたとか。赤ん坊を放り上げて銃剣で刺したとか。米国の資産家が手首のない子を引き取って育てるという話まで出て、終戦後に被害児童を探したけれど、そんな子供な



ど一人もいなかった。

家族が犯され、殺され、赤ん坊一人が生き残ったというセンセーショナルな話も話題をさらい、英王室のアン王女が赤ん坊のためにベビー服を縫って贈った。それも嘘だと、やがてバレた。

ジョン・ダワーは『敗北を抱きしめて』で、第一次大戦でドイツ軍に言われたのと同じ嘘が日本軍に対しても言われたことについて、ドイツ軍については後に検証して嘘とばれたが、日本軍の場合、それは明々白々で改めて検証するまでもなく日本軍は残酷だったと言いつつ切っている。検証くらいしろよ。

しかも、日本については戦後になって出てきている。ドイツのときは戦時中、目下ドイツ軍がやっていると進行形の報道だった。米国が参戦す

るためのプロパガンダだから当然そうなる。主体はCPIだった。

一方で、日本では、大高さんが先述したように米国の原爆投下を正当化するために「日本軍は落とされてもしょうがないほど残忍だった」と、言い訳のためにつくり上げられていった。ところが、日本の場合、日本人の学者、例えば関東学院大学の林博史が「日本兵がマレーで子供を放り投げ、銃剣で刺した」とか、常石敬一が731部隊を言い立てたり、早大の後藤乾一が東ティモールで島民を四万人虐殺したとか、慶應大名誉教授の倉沢愛子が同じく東ティモールで慰安婦を強制動員したとか。自ら米国のCPIの代行を任じている。

大高 朝日の慰安婦報道にしてもそうですが、自ら貶めるようなことをするから、国際社会も寄ってたかつて日本叩きに走るわけです。もうそんな悪循環はやめるべきです。

『ジャパンズ・ホロコースト』は、むしろ邦訳されてほしい。そうすれば、いかに海外の日本貶めプロパガンダがひどいのか、多くの日本人にも周知されるからです。リッグ氏に限らず、今は歴史戦において組織的に日本叩きに動いているのを感じます。海外でどのように我々の先人たちの姿が歪められ、貶められているのか直視すれば、日本人が目覚めるきっかけにもなる。

高山 本当にそうだね。大高さんもサイモン・ウィーゼンタールあたりからにらまれていると聞きます。そんな脅しに負けず、日本の名誉のために真実を訴え続けてもらいたい。そうすれば、少しずつ状況は変わっていくに違いありません。